

# 東都大学図書館通信(深谷キャンパス)

## インターネットサーフィンの時間を読書に充ててみませんか

～ 時にはじっくり本と向き合ってみましょう ～

### 1. あかはなそえじ先生

皆さんはホスピタル・クラウンという職業をご存知でしょうか。ホスピタル・クラウンとは病院で活動する道化師のことで、病院や家で療養中の子どもたちに会いに来てくれる人たちです。院内学級(病院内にある教育施設)の先生でありながら、ホスピタル・クラウンとしても活躍する副島賢和(そえじまさかず)さんは、病気や入院で不安を抱えている子どもたちに日々向き合い、「子どもたちが自分自身でいられるための安心な場所づくり」に努めていらっしゃいます。副島先生ご自身も教師になられてから入退院を繰り返した時期があったそうですが、この時「自分は不幸で、幸せは病院の外にある」と思っていたそうです。しかし、これでは「療養中の子どもたちも不幸だということになる」と考え、思いを改めたそうです。子どもたちにとって「学ぶことは生きること」。学ぶことで得られる前向きな気持ちは、つらい治療に立ち向かうエネルギーになるそうです。副島先生の授業は笑顔が絶えず愛に溢れています。そして何より先生の子どもたちに対する目線がすごく優しく温かいのです。この本には「こんな子どもたちがいることを知ってほしい」という副島先生の願いが込められています。胸が熱くなる1冊です。



あかはなそえじ先生のひとりじゃないよ  
(副島賢和・著/学研教育みらい)

### 2. 日本の古典をよむ② 日本書紀

『日本書紀』は『古事記』と併せて「記紀」と呼ばれ、いずれも天武天皇の命令によって作られました。ともに古代日本を今に伝える貴重な書物となっています。『日本書紀』の編纂は川島皇子(かわしまのみこ)や忍壁皇子(おさかべのみこ)らに始まり、最終的に舎人親王(とねりしんのう)が受け継ぎ、720年に完成しました。編纂期間はおよそ39年。巻数は実に30巻にも及びます。約4ヶ月で完成した『古事記』(全3巻)と比べるとその規模の大きさがうかがえます。『古事記』が国内向けの私史であるのに対し、『日本書紀』が国外向けの正史であることは前号でもお話ししましたが、ほかにも異なる点がいくつも存在します。例えば記述形式です。『古事記』が変体漢文体という漢字の訓読みと音読みを交えた日本語で書かれているのに対し、『日本書紀』は当時の国際語であった漢文体で書かれています。また神代(じんだい)に関する記述では、『古事記』が全3巻中1巻を占めているのに対し、『日本書紀』では30巻中2巻のみとその割合は少ないです。では何故「記紀」が編纂されたのか? それは当時、天皇を中心とする国家を確立するにあたり、理論的な裏付けが必要になったためと考えられています。



日本の古典をよむ② 日本書紀上  
(小島憲之ほか・著/小学館)

### 3. ハリウッドスターも認めた一流のおもてなし

帝国ホテルのサービスは世界一流と呼び声が高いですが、いわゆる業務マニュアルのようなものは一切存在せず、100年以上に渡り受け継がれている「帝国ホテル精神」によってその質が保たれているそうです。同ホテルに勤務していた川名幸夫さんの著書『帝国ホテル 伝統のおもてなし』には帝国ホテル流のサービスがいくつも紹介されています。「基本に忠実であること」「常に誠実であること」「お客様の視点に立つこと」など当たり前ことのものであるものの、「常にそうある」ことは帝国ホテルに勤務している方々の高いプロ意識があってこそと思われれます。では、帝国ホテルにまつわる有名なエピソードをひとつご紹介しましょう。俳優のキアヌ・リーブス氏は映画『JM』の中で、カーチェイスの末泥だらけになった自身のワイシャツを見てこんな台詞を発しています。「東京の帝国ホテルでやってくれるようなランドリーにシャツを出したい」。これは当初の台本にはなかったキアヌ氏のアドリブだそうで、彼が帝国ホテルのランドリーサービスをとても気に入っている様子がうかがえます。ハリウッドスターをも虜にした帝国ホテルのサービスは、日本が誇る極上のおもてなしと言えますね。



帝国ホテル 伝統のおもてなし  
(川名幸夫・著/日本読者協会77) (文芸春秋)  
出版社品切れ・重版未定

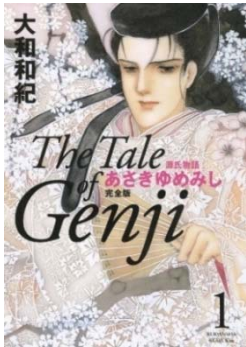
### ◆◆ 休館のお知らせ ◆◆

大学行事や蔵書点検に伴い、3月は下記の通り休館します。利用者の皆様にはご迷惑をおかけしますが、何卒ご了承くださいませよう、よろしくお願い申し上げます。

\*「蔵書点検」とは、図書館の本が無くなっていないか、請求番号どおりに本が配列されているかを調査する期間です。本のバーコードを1冊ずつ読み取る地道な作業のため、どうしてもまとまった期間のお休みが必要となります。ご不便をおかけしますが、何卒ご理解頂きますと幸いです。

#### 2020年3月 開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11 一般入試	12	13	14 学位授与式
15	16 蔵書点検	17 蔵書点検	18 蔵書点検	19 蔵書点検	20 春分の日 一般入試	21 (蔵書点検中のため)
22	23 蔵書点検	24 蔵書点検	25 蔵書点検	26 蔵書点検	27 蔵書点検	28 (蔵書点検中のため)
29	30 蔵書点検	31 蔵書点検				



あさきゆめみし完全版(1)  
(大和和紀・著/講談社)

## 『あさきゆめみし』～古典文学のイメージを180度変えた漫画版『源氏物語』～

司書 長塚香織

図書館の仕事に携わっているが大変お恥ずかしい話ですが、私は学生の頃から歴史や古文がとても苦手で、有名な古典文学さえまともに読まずにこれまで過ごして参りました。図書館通信第89号で須田利佳子先生が『源氏物語』についてその魅力をご紹介くださった時は、古典文学の言葉の響きにまで面白さを感じていらっしゃる先生に尊敬の念を抱きました。そんな私に転機が訪れたのはちょうど1年位前です。歴史をほとんど勉強してこなかった自分に不安を覚え、ただ漠然と日本史を勉強したいと考えていた時、たまたま目にした「歴史を学ぶには漫画が良い」という新聞記事に背中を押され、『日本の歴史』(角川まんが学習シリーズ)を読み始めました。苦手だったはずの歴史が面白いように頭に入ってくる感覚は非常に気持ちがよく、歴史を学ぶ楽しさを体感しました。『日本の歴史』を読み終えた頃、ある学生さんから『あさきゆめみし』(紫式部・原作/大和和紀・著)という作品を紹介されました。これは古典学習のバイブルとも称される漫画版『源氏物語』で、学習漫画200選にも選ばれているそうです。作品の存在は知っていたものの読んだことがなかった私は、学生さんが夢中で読破したという感想に心を動かされ、さっそく読ませていただくことにしました(貸してくださった学生さん、ありがとうございました)。感想はひと一言「源氏物語って面白い!!」。原作者である紫式部の創作力の素晴らしさはもちろんですが、大和和紀さんが描く源氏物語の風景は非常に優美で読者を陶醉させます。「古典文学は硬いもの」という私の勝手な思い込みは『あさきゆめみし』によって払拭され、同時に「古典をもっと読んでみたい」という新しい興味の扉が開かれました。様々な古典を読み進めると、非常に身近で読みやすい内容のものが多いことに気づかされます。例えば清少納言が書いた『枕草子』には、彼女が中宮定子に仕えていた頃の出来事や日々感じたこと等が綴られています。千年前に書かれたとは思えないほど瑞々しく、共感できるエピソードがたくさん記されています。また、菅原孝標女(すがわらのたかすえのむすめ)が書いた『更級日記』には作者の幼少期から約40年間にわたる出来事が綴られていますが、源氏物語を読みたてたままなかった少女時代の作者の様子はとても可愛らしく、何よりそれほど前から人々を魅了し続けている源氏物語のすごさに感服します。最近読んだ中では、(古典ではありませんが)『もしも紫式部が大企業のOLだったなら』(井上ミノル・著/創元社)という作品が非常に面白かったです。この本には紫式部や清少納言、そして彼女らを取りまく人々の性格や人間模様がわかりやすく丁寧に描かれていて、これまで知らなかった彼女たちの意外な一面を知ることができます。紫式部は宮仕えに入るとすぐに人間関係に頭を悩ませ、5ヶ月間も家に引きこもってしまったそうですし、清少納言は非常に聡明でありながら、自身の容姿にコンプレックスを抱いていたそうです。この本を通して彼女たちの人間らしい側面を垣間見たのと同時に、「人間って千年前もいまも変わらないんだなあ」という思いが頭を巡りました。歴史と古典文学が身近になった今、私の生活には大きな変化もたらされています。特に実感するのは「旅の深さ」です。本を読んでからその物語や作者に縁のある場所へ足を運び、感動はこれまで以上に大きく、何より自分自身が満たされているのがわかります。そして、もっと色々なことを知りたいという衝動に駆られ、本を次々と読みたくなります。苦手だった歴史や古典文学にこれほどまで夢中になるとは自分でも驚くばかりです。

本は私たちに大きな潤いを与えてくれます。「なんとなく面白そう」「タイトルに惹かれる」「表紙が可愛い」等、気になった本はどんどん開いてみてください。それらの本こそ、自分さえ知らなかった「夢中になれる何か」へと貴方を導いてくれるかもしれません。



## ロンドン・ナショナル・ギャラリー展

ロンドン・ナショナル・ギャラリーは1824年に設立された英国の美術館で、世界屈指の美の殿堂として知られ、その幅広く質の高いコレクションは「西洋絵画の教科書」とも称されています。同館がまとまった数の作品を国外へ貸し出すことは、200年近い歴史の中で1度もなかったことですが、この度世界初となる大規模所蔵作品展が日本で開催されることとなりました。今回来日するすべての作品が日本初公開で、あのゴッホの「ひまわり」も来日します。本展ではこの珠玉のコレクションからイギリスとヨーロッパ大陸の交流という視点で歴史を紐解き、西洋絵画史の全体を眺めていきます。いずれの作品も世界最高級といえる稀有な展覧会です。ぜひお見逃しなく。

(右) フィンセント・ファン・ゴッホ『ひまわり』1888年 ©The National Gallery, London. Bought, Courtauld Fund, 1924

## 早咲き白梅

青空に映える満開の白梅。メジロが何羽か遊びに来ていましたが、残念ながらその姿をカメラに収めることはできませんでした。ちょこちょこ動く姿がとても可愛らしかったです。



会場：国立西洋美術館(東京・上野公園) 〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7 会期：2020年3月3日(火)～6月14日(日) 開館時間：午前9時30分～午後5時30分 ※金曜日、土曜日は午後8時まで ※入館は開館の30分前まで 休館日：月曜日 ※ただし、3月30日と5月4日は開館 観覧料(当日券)：一般1,700円/大学生1,100円/高校生700円 ※中学生以下は無料。※心身に障害のある方と付添者1名は無料(入館の際に障害者手帳をご提示ください)。/ 展覧会公式サイト：<https://artexhibition.jp/london2020/> 公式Twitter：@london\_2020art /お問合せ：03-5777-8600(ハローダイヤル)